



令和元年 12 月 16 日

鳥取地方気象台

鳥取地方気象台における目視観測通報を自動化します

これまで鳥取地方気象台では、気温、風、降水量、日照などを自動で観測するとともに、職員が目視により晴れや曇り、雨、雪、霧などの天気や大気現象、並びに視程(見通しのきく距離)を観測してきました。

近年、気象レーダーや気象衛星観測等を活用した総合的な大気の把握が可能となるなどの技術の進展を踏まえ、目視観測通報を自動化します。

1 自動化の開始日

令和2年2月3日(月)

2 変更点等

別紙のとおり

3 参考

中国地方の各地方気象台(広島地方気象台を除く)でも、目視観測通報を自動化します。

【本件に関する問合せ先】

鳥取地方気象台 担当：若狭

電話 0857-29-1311

地方気象台における目視観測通報の自動化について

これまで地方気象台では、気温、風、降水量、日照などを自動で観測するとともに、職員が、目視により晴れや曇り、雨、雪、霧などの天気や大気現象、並びに視程（見通しのきく距離）を観測した結果を、毎日定められた時間に気象観測通報として発信しています。

近年、気象レーダーや気象衛星観測等を活用した総合的な大気の把握が可能となるなどの技術の進展を踏まえ、地方気象台における観測のあり方について、見直しを図りました。

このため、令和2年2月3日から、通報のために職員が目視により行っている観測を自動観測通報へ移行するとともに、一部の大気現象等の観測を終了します。

なお、大阪管区管内では、大阪管区気象台、広島地方気象台、高松地方気象台において従前どおり目視観測通報を継続します。

■ 自動観測に移行する観測種目

- 以下赤枠内の大気現象については、職員による目視観測から自動観測に変わります。
- 視程（見通しのきく距離）も、新たに設置する視程計を用いた自動観測に変わります。
- 雷は、これまで職員が目視や聴音により観測していましたが、雷監視システム(LIDEN)と気象レーダーを用いた自動観測に変わります。

〈今後、自動で観測する天気や大気現象〉




晴れ, 曇り, 雨, 雪, みぞれ, 霧, もや, 煙霧, 雷



■ 目視観測通報の自動化に伴い終了する観測種目

● 天気

快晴、薄曇

● 大気現象

現象の分類	目視観測通報の自動化に伴い観測を終了する大気現象
大気水象	雪あられ, 氷あられ, ひょう, 細氷, 凍雨, 霧雪, 着氷性の雨, ふぶき, しぶき, 霜 (注1), 結氷 (注1), 竜巻, 積雪 (注2), 冠雪 (注1) <small>注1) 寒候年（前年8月～当年7月）に初めて観測する霜, 結氷, 冠雪は従来どおり初霜, 初氷, 初冠雪として記録します。 注2) 「積雪の深さ」については、従来どおり機械で計ります。</small>
大気じん象	黄砂, 煙, 降灰, 風じん, 砂じん嵐, じん旋風
大気光象	かさ, 光冠, 彩雲, にじ
大気電気象	電光, 雷鳴

● 雲量及び雲形